長洲町立長洲小学校 校長便り No.79

> きます。たまに、子供達に指導 す。これは経験則として断言で

自覚させることが重要なので

か通らない理由や原因を子供

みんなの居場所の裏面は、小学生に ご家族の団らんの話題にしてみてくだ さい。会話が広がほす。

令和5年3月13日(月)

困らせる子は 困っている子

関わり続けるというようにし らせる子(苦手な子)はすべて 手…」なんて思うこともあるか 感を味わわせることにより、 低い傾向にあり、上からの指導 教室の最前列に配置して、常に で、私はこうしていました。困 ることは許されません。そこ 口教師ですから、そこから逃げ もしれません。でも、私達はブ れることもあるでしょう。担任 ですから、時に苦手意識が生ま 極的に関わり、仕事をさせ達成 ます。そういう子供達には、積 に対しては抵抗感を持ってい ったお子さんは自己肯定感が ていました。もともと、そうい としては「ちょっとこの子は苦 つ考え方です。お互い人間同十 りせる子は困っている子」とい 時に重要視していた視点が「困 任させて頂くことが多く、濃密 の掛かるお子さんや学級を担 に。 そんな児童、 学級と過ごす 4時間を過ごすことが常でし 「やればできる」という感覚を

私は担任教諭時代、比較的手

思い出してみました。 も繋がっている。」

「1年間お前らを担任できて幸せだった。 ほんとはこの かったのになっていうのが本音だ。」 ままもっと一緒にいたいし、卒業なんてこなければよ

も「先生」と声をかけてくださいます。有難いことです。 ほどしかありません。確実に卒業の日はやってきます。 私に、これまで関わった子供達、保護者の皆様が、今で がとう」には、色々な意味のありがとうを込めたつもり の一言は「ありがとう」しかでてきません。その、「あり 感動し、壁を乗り越えることで、私もこの世界で生きア てくれたのは、教え子達でした。教え子達と共に苦しみ これからも教師でいられるように真摯に謙虚に感謝して 気です。担任時代を思い出しながら、目を細めています。 いたいものです。教室を覗くと心配ご無用のようで、卒 その日を充実した気分で迎えられるように活動してもら て頂き、正に教師冥利に尽きます。大した教師ではない があり、教え子達の節目節目で何らかの関わりを持たせ の教師生活では6年生担任が最も多く、卒業後の繋がり らきりがありません。私はラッキーなことに、これまで です。口にしたら涙が出そうですし、また、話し出した に向き直り、涙をこらえるばかり。そしてやっぱり最後 ったり、一言かけられたりするともうダメですね。黒板 を抑えてらっしゃるので、最後に子供達全員から花を貰 いけるのだなと。保護者の皆様も、我々教師の涙のツボ **業式の準備をしたり思い出話が聞こえたり、温かな雰囲** さて、6年生も長洲小学校に登校できるのは、数える

卒業式で教え子達にかけた言母

るその日に向けて、色々な言葉をかけてきました。元来、 私は6年生を担任させて頂くことが多く、必ずやって来 の利いた言葉をかけた記憶がありません。でその言葉を 感動、涙つるうるってのが苦手で、できるだけカラッと した感じの式にしたく、更に照れ隠しもあってあまり気 卒業式の節目、教え子達との別れはほろ苦いものです。

「卒業は節目だけど通過点でしかない。お前らとはいつ

「もう学校くんなよ! 暇があったら勉強せ~!」

最後に、いつも「ありがとう」でした。私を教師にし

シリーズ「自分を語る」 #79

す。彼女の番です。彼女は私の氏名点呼にも拘らず、無言で証書を受け取りま に立たせました。 した。卒業式の練習が終わり、この子のお父さんは娘の腕を取り、ステージト した。当然、全員の氏名点呼があり、大きな声で返事をして証書を受け取りま この女の子のお父さんがやってきました。当日は卒業証書を受け渡す練習で

「〇〇! お父さんが名前ば呼ぶけん 大きな声で返事ばせえよ。〇〇!」 「・・・」(無言で泣いていました。)

ドキドキしていました。お父さんが感情のままに娘を叩いたら、即止めに入ら ねば等と考えていました。 この繰り返しが、20回ほど繰り返されたでしょうか。私はどうなるのかと

お父さんも涙を流し始め、声も切れ切れです。消え入るような声で

「〇〇…」と呼んだ時でした。

んはステージ上で娘を抱きしめていました。 私は感動して、よく2人の姿は見えませんでした。涙を拭った時にはお父さ

長先生に向かって、お父さんとの練習の通り、 の氏名点呼です。私は深呼吸をして彼女の名前を呼びました。ステージ上で校 業式当日を迎えました。 凛とした中にも、 粛々と進んでいく卒業式。 卒業証書 その後卒業式まで、この子は声を発することはありませんでした。そして卒

「は…い…」

その①「やはり親の無償の愛には太刀打ちできない。」 卒業式は滞りなく進行し、感動的な卒業式となったことは言うまでもありませ 次の児童の名前を呼ぶ前に、気持ちを平常に戻すのが大変でした。それ以降、 ん。この出来事から、私は幾つかのことを学びました。 と返事をしました。この時は、校長先生も私も涙をこらえるので必死でした。

その③「その子にとって本当に必要なことを見極める。」 その②「教師として、この子の親だったらという視点を忘れない。」 以上の3点です。忘れがちなことであり、大切なことばかりです。私は常に振

り返ることができるよう、子供達と向き合う時に意識しています。

婚のお知らせと招待状でした。あの時、お父さんと一緒に行った荒療治が間違 いなかったと改めて感じています。 数年前、この子から封書が届きました。寿のシールが貼ってありました。結

目を終え、まだ異動の対象にはなっていませんでした。余裕余裕。いざ校長室 さて、その年も年度末の異動の季節がやってきました。私は伊倉小学校3年

「澤田先生、退職願を書いてください。_ 何ですと~~~・・・・」(腰が抜けそうでした。) (つづく)

見つめ直す必要があると思い

自分自身のパフォーマンスを を見かけますが、そうする前に 達に見出そうとしている教師

)